

資金分配団体の「同一事業の再申請」について

令和 4 年 10 月 12 日
内閣府 休眠預金等活用担当室

目次

- 休眠預金等活用制度における同一事業の取り扱いに関する規定・・・ P.1
- 同一事業の再申請のこれまでの議論・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
- 「同一事業」に関する認識・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3
- JANPIAの審査プロセスにおける「同一事業」の取り扱い・・・ P.4
- 対応案・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5

休眠預金等活用制度における同一事業の取り扱いに関する規定

- 基本理念等に掲げる**多様性の配慮**、**自立した担い手の育成**の見地から、**同一事業の申請について要件を設けている。**
- 具体的には、過年度採択を受けた資金分配団体は、**過年度事業とは別の新たな内容であれば事業申請**できることとしている。

国会	法律	<p>(休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本理念)</p> <p>第十六条 略</p> <p>2 休眠預金等交付金に係る資金は、<u>民間公益活動の自立した担い手の育成に資するとともに、・・・活用されるものとする。</u></p> <p>3 略</p> <p>4 休眠預金等交付金に係る資金の活用にあたっては、これが<u>大都市その他特定の地域に集中することのないように配慮</u>されなければならない。</p>
政府	基本方針	<p>第2 休眠預金等に係る資金の活用に関する基本的な事項</p> <p>1. 休眠預金等に係る資金の活用にあたっての基本原則</p> <p>法第16条で定められている休眠預金等に係る資金の活用に関する基本理念等を踏まえ、休眠預金等に係る資金の活用にあたっての基本原則を以下のとおり定める。</p> <p>(中略)</p> <p>(6) 多様性</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">優先的に解決すべき社会の諸課題及びその解決策は地域や分野等によって多様であることに十分配慮する。</p> <p><u>指定活用団体及び資金分配団体が、民間公益活動を行う団体を選定するにあたっては、優先的に解決すべき社会の諸課題及びその解決策は、地域や分野等によって多様であることに十分配慮する。</u></p>
J A N P I A	事業計画	<p>1. 2022年度助成事業(6)選定配慮事項と優先選定</p> <p>過年度に採択された事業を実施中の資金分配団体は、<u>当該事業と異なる新たな内容であれば、今年度資金分配団体となるための申請をすることができる。</u>原則として、新たに資金分配団体となるため申請した選定申請団体を、すでに資金分配団体である選定申請団体よりも優先して選定する。</p>

同一事業の再申請のこれまでの議論

○これまでの議論では、現場からは**同一事業でも取り組み内容によって判断**すべきという声がある一方で、それに対して**団体の固定化、既得権益化**といった懸念が示されてきた。

経緯

- 通常枠については、2020年度JANPIA「事業計画」において、同一事業の再申請を認めない旨を記載。
- 過去の審議会（2020年12月）において現場の団体から、「より多くの受益者への展開の観点から、資金分配団体による同一事業の再申請を可能としてほしい」との要望が示された。
これに対して、
 - ・ 多様な担い手の確保や育成が重要
 - ・ 資金分配団体の固定化、系列化、既得権益化の懸念等の議論がなされ、審議会委員からは「慎重に考えるべき」との意見。
- 一方、議連においては、「一律に禁止されているが、内容次第では認めるなど柔軟な対応をすべき」、との意見（2021年2月）。

現場（資金分配団体）の声

- 気鋭のプログラムが提案・採択されており、次年度も同じプログラムで申請できるようにすべき。
- 同一事業でも、他地域に展開すべき事業もあり、その取組内容に応じて判断すべき。

「同一事業」に関する認識

- 一部の資金分配団体において、別地域、別の実行団体を対象とするものであっても、**事業構造（ロジックモデル）**が同じである場合には、要件に定める新たな事業内容ではない（＝同一事業である）として、**再申請ができないと認識されている現状。**

資金分配団体A

A県子ども食堂事業

中長期アウトカム

支援地域において、自活できる子どもが育まれる。

短期アウトカム

子ども食堂等への必要な支援が継続される。

地域資源をつな
げる環境を構築

知識・技能習得
の環境を構築

アウトプット

交流会●回開催。

アウトプット

研修会●回開催。

活動

子ども支援団体間
の交流会を実施

活動

知識・技術習得の
研修会を実施

実行団体①

事業の
再申請



同一の
事業構造
(ロジック
モデル)

資金分配団体A

B県子ども食堂事業

中長期アウトカム

支援地域において、自活できる子どもが育まれる。

短期アウトカム

子ども食堂等への必要な支援が継続される。

地域資源をつな
げる環境を構築

知識・技能習得
の環境を構築

アウトプット

交流会●回開催。

アウトプット

研修会●回開催。

活動

子ども支援団体間
の交流会を実施

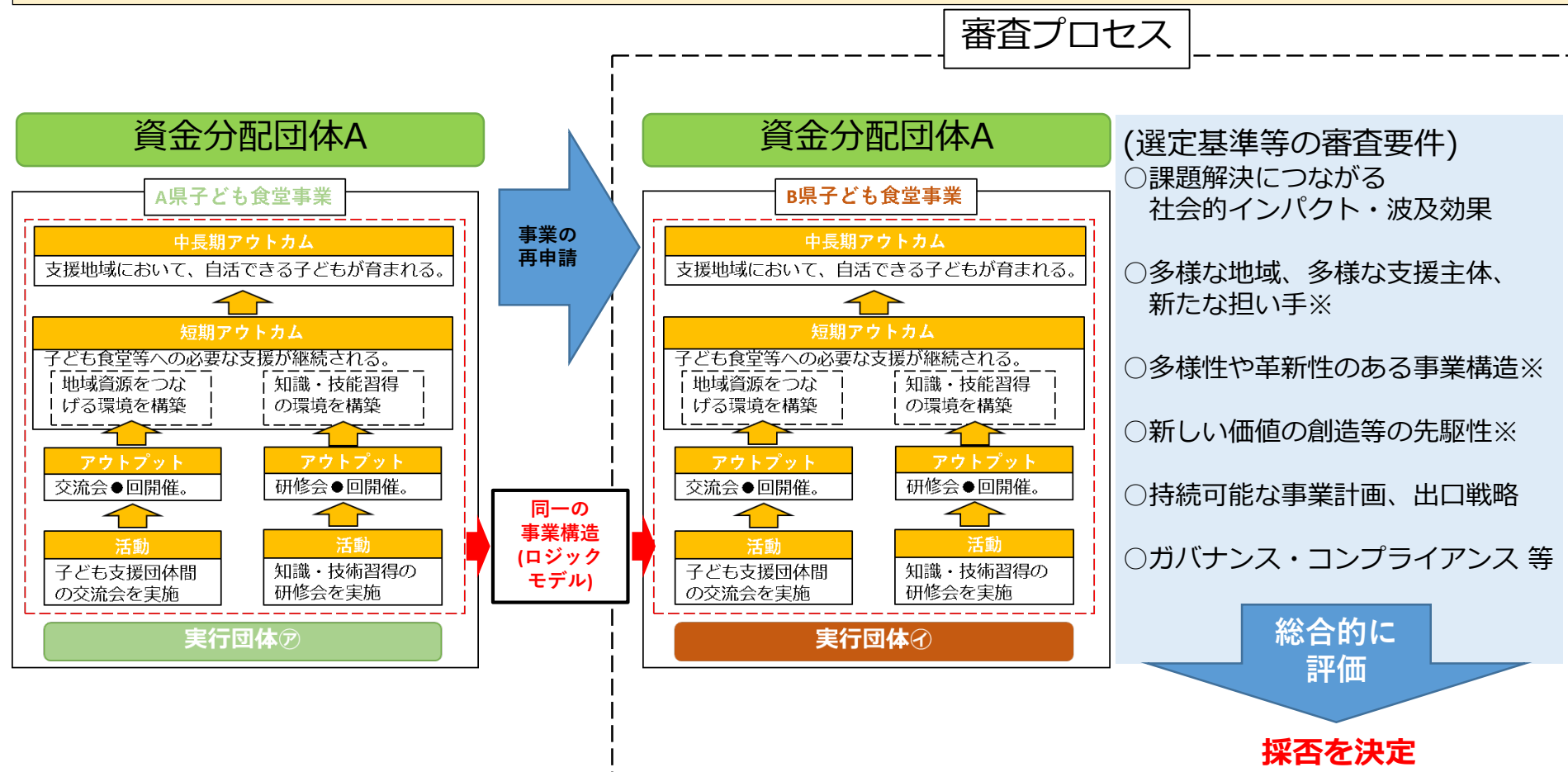
活動

知識・技術習得の
研修会を実施

実行団体②

JANPIAの審査プロセスにおける「同一事業」の取り扱い

- JANPIAの審査においては、事業の対象となる社会課題は事業実施を通じて変化するものであることを踏まえ、**同じ事業構造（ロジックモデル）に基づくものであっても、そのことのみをもって「同一事業」に該当するとは判断していない（事実上の要件緩和）。**
- このため、再申請を受け付けたうえで、**社会的インパクト、革新性、多様性等の要件に照らして総合的に評価し、採否を決定している。**



※事業構造（ロジックモデル）が同一であることは、これらの要素を評価する上での一要素という位置づけ 4

- 「同一事業であるため再申請ができない」との認識・慣行を改めることが必要。
- JANPIAの実際の審査基準、すなわち同一事業であることは審査要件の一つの要素にとどまり、**社会的インパクト、革新性、多様性等の要件に照らして総合的に評価し、採否を決定している。**
- 事業計画等における同一事業の記載ぶりの修正を検討。

対応案：事業計画の記載ぶりの修正（案）

（事業計画）選定配慮事項と優先選定

- JANPIAは、資金分配団体の選定に当たっては、社会的成果の最大化の観点から行うものとする。また、**社会の諸課題やそれを解決するための手法の多様性の確保や団体の多様性にも留意した対応となるようにとの観点から、以下の措置を講ずる。**
 - （1）過年度に採択された事業を実施中の資金分配団体は、**当該事業と異なる新たな内容であれば、今年度資金分配団体となるための申請をすることができる。**原則として、新たに資金分配団体となるため申請した選定申請団体を、すでに資金分配団体である選定申請団体よりも優先して選定する。

修正

（事業計画）選定配慮事項

- JANPIAは、資金分配団体の選定に当たっては、社会的成果の最大化を目指すものとする。**これまでに採択された事業で得られた成果や手法を深化させるとともに、地域的な展開を図るため、以下の事項に配慮して選定を行う。**
 - （1）**選定申請団体からの申請を広く求め、事業の革新性や持続可能性、事業実施による波及効果、団体の多様性等の観点に基づき総合的に評価を行い、選定する。**